

VR メディア評論

たぶん惑星

粟岳高弘 著

一迅社 REX コミックス ISBN-10: 4758064105 2013/9/27 発行

粟岳ワールド全開の完全なるフィクション

推薦者：谷川智洋（東京大学）

インタビュアー：上岡玲子（九州大学）

あらすじ

時代背景的には昭和 64 年頃の日本。SF 的要素をふんだんに取り入れた牧歌的風景の中での中学生美少女たちの日常を描いている。日常生活の場は地球と恒星間トンネルで結ばれた堀之内新国土で、地球と気候風土が良く似ている。昭和の情景、パソコン通信など懐かしい電子機器が描かれる中で、異性物との交流や SF 的ギミックが登場する癒し系フィクション作品。

インタビュアー（以下 I）：

この作品⁽¹⁾を推薦した理由を聞かせて下さい。

谷川先生（以下 T）：

今回の作品は論理的に理由は説明できないのですが、紹介したいと思った作品です。

I：主観的に好きだという意味ですか？

T：はい。この作品に関しては賛否両論あるかもしれませんが、何はともあれ好きな物を好きなように表現してそれが世に出ているという現象が素晴らしいと思います。好きな物（図 1）を書き続けている粟岳さんという作家⁽²⁾へのリスペクトも込めて、今回の作品を推薦させて頂きました。

I：ぶれない姿勢に敬意を表してということですね。

T：はい。粟岳氏のマンガを見たのは結構前ですが、その時から空気感を全く変えずに作品を書き続けています。多くの人が良いと言っているわけでもなく、熱狂的なファンがいるわけでもないのに、淡々と書き続けて、それがこういう本として登場した事実に感動を覚えません。

I：最近の傾向として、世間では社会性を求められる時代ですが、独自の路線を貫き他者にわかってもらおうとあえてしない雰囲気は作品からも感じとれます。



図 1 たぶん惑星より(1 巻 P.44)

© 粟岳高弘 / 一迅社

T：はい。一般的に作家の独自の世界観でマンガ作品を描くということは、手塚治虫の「火の鳥」⁽³⁾のように長い年月をかけて実現するライフワークとしての作品というイメージが強いですが、大先生と呼ばれるようになって初めて好きな表現ができるというすごく歯を食いしばって頑張るような覚悟が必要という印象があったのですが、粟岳氏のスタンスからはやりたい事をそのままやっているという自由さというか、力が入ってないところがいいです。

I：VR の研究も流行に流されず、終始一貫した研究が大事ということでしょうか。

T：必ずしも全ての研究がそうあるべきだとは思いませんが、ライフワーク的研究は尊敬に値します。

I：作者が非常に個性的で作者の話になってしまいましたが、作品の話に少し入っていきましょう。とはいえ、

この作品、普通の物語の展開とは全く違った表現になっていて説明するのが難しいですが、とにかくトンネル⁽⁴⁾をぬけると地球とは違う惑星に移動して、そこには日本の昔の田園風景に酷似した世界があるという前提で物語がはじまっています。

T: 作品の物語性を説明するのは非常に難しいですね。一般的な物語の構成にはなっていませんからね。それでも作者の世界観が十分に表現されているので引き込まれる作品です。論理的に説明できないけれどそこに個々人が自分なりの解釈をつけて作品を楽しんだり何かを発見できるというのは計算しつくされたコンテンツとは違う面白さがあります。

I: 誰でも楽しめるわかり易いストーリー構成はグローバルに作品を展開していく上では求められる要素とされていますがそれとは真逆の構成ですね。

T: はい。そもそも日本の文化はグローバルという考え方に対応していないかもしれません。元々島国で外から人が入りにくい構造のため日本文化の根底に島国のやや閉鎖的環境から蓄積・構造化された独自の共通概念があるような気がします。色々な移民を受け入れてきたアメリカでは制作される作品が自然とグローバル化されているのと同様に日本で制作される作品が独自の世界観を持つ所以がここにありそうです。

I: グローバル化が叫ばれている現在、あえて、日本人的な考え方を押し進めることも味のある作品になるということでしょうかという路線もありということですね。

T: はい。この作品のように完全に地球外の設定にも関わらず、昔の日本の風景というギャップの描き方は日本人独特の世界観だと思います。日本人の多くが郷愁を感じるような風景でありながら古い感じでもなくてコンクリートの障壁⁽⁵⁾が違和感なく溶け込んでいる描画も面白いですね。他にも斥力場を使った遊びや惑星間移動、物質変換など完全なフィクションですがその発想が楽しめます。深編み笠の HMD で体験できるバーチャル空間の描写(図 2)もフィクションですが中々興味深いシステムです。



図 2 たぶん惑星より(2巻 P.49)
© 粟岳高弘 / 一迅社

脚注

- (1) 紙媒体の他に Kindle 版も amazon から購入可能。
- (2) 粟岳氏の wikipedia による来歴によると、1990 年代初期から CG 作品の発表を行い、同人活動を精力的に行っている漫画家と評されている。描かれる作品は似非 SF というジャンルと作者本人が説明していて、SF 的でもあるが、昭和の懐かしい風景やパソコン通信の黎明期のコンピュータ、そして美少女のふんどし姿や腰姿などがどの作品にも描かれているのが特徴。
- (3) 火の鳥(不死鳥)を中心に過去や未来の時間軸を横断しながら生命の本質・人間の業を描く壮大なスケールの作品で作者である手塚治虫氏が死亡した瞬間に作品が完結するという構想で手がけられた手塚氏のライフワーク。
- (4) 小笹トンネルをぬけると太陽系から 50 から 100 光年離れた別の恒星系に存在する惑星へ移動できる設定。堀之内新国土として地球人も入植している。
- (5) 建造者(堀之内新国土にある高度な機能を持つギミックをつくりあげた異星人)の通信機といわれるコンクリート風発砲建材で削ったキューブ型の建造物。